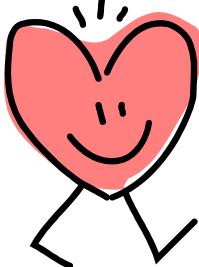


# だい かい 第9回 にほんご

# 日本語



平成26年3月2日(日)にイーグレひめじ・あいめつせホールにて、  
第9回日本語スピーチコンテストを開催しました。今年は、中国、韓国、  
ベトナム、インドネシア出身の姫路市在住外国人17名が「私の心の中  
の声」をテーマにスピーチをしました。

今回、見事金賞に輝いたのは、「興味深い！日本料理の名前」というスピーチをした、中国・広東省出身の劉傅媛さんです。月夜の美しさを思わせる「月見うどん」や、人の関係を名前にした「親子丼」を例に挙げ、料理の名前にも日本人の知恵が表れていますと、ジェスチャーを交えながら美しい日本語で話されました。



銀賞を受賞したのは、「『食わず嫌い』は勿体ない」というスピーチをした、ベトナム出身のディンティフォンさんです。苦手だった納豆が大好物になったという自身の体験をもとに、食べ物に限らず、異国の文化や人々に対して先入観を持たないことが大切ではないかと感情豊かに語りました。



銅賞を受賞した栗欣偉さんは、中国の環境問題を取り上げた「姫路で生まれた母国への思い」というスピーチで、一人一人の意識が高くなれば故郷にもきっと美しい環境が戻ってくるはずだと訴えかけました。  
観客が選ぶ「オーディエンス賞」を受賞したのは、「安富とぼく」というスピーチをしたインドネシア出身のファリザルヘルミントさんです。



初めは、安富のあまりの寒さに外に出られず、まるで冬眠するように過ごしたり、便利な都会に住む友達をうらやましく思ったりしたそうですが、暮らすうちに安富の良さがわかるようになった、と微笑ましい体験を愛嬌たっぷりに話されました。

平均わずか半年～2年という短い滞在期間にも関わらず、敬語や丁寧語はもちろん、ユーモアを交えながら堂々と、そして一生懸命に話す発表者たちの姿に、観客からは感嘆の声が挙がっていました。励まされたり、大笑いしたり、時にはほろりしたり、日本人が気付かない日本文化のおもしろさや、日本人独特の考え方や価値観についても、改めて見つめ直すことができる大変貴重な機会でした。

発表者のみなさん、感動をありがとうございました！

かんべえくん  
おうえん  
も応援に来て  
くれました！

